

～ 健口と輝く笑顔のために～ ASSOCIATION

歯科衛生だより

発行人／武藤 智美
 発行／公益社団法人 日本歯科衛生士会
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
 TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023
<https://www.jdha.or.jp/>

2026 February vol. **91**

日本歯科衛生学会 第20回学術大会 歯科医療DXで変わる！歯科衛生士の未来 ― 知る、活用する、つながる ―

主催：日本歯科衛生学会／公益社団法人日本歯科衛生士会
 共催：公益社団法人東京都歯科衛生士会
 後援：東京都、品川区、公益社団法人東京都歯科医師会
 公益社団法人東京都品川歯科医師会、公益社団法人東京都荏原歯科医師会

日本歯科衛生学会 第20回学術大会が、令和7年11月2日(日)・3日(月・祝)の2日間、昭和医科大学上條記念館(東京都)において開催されました。会場には1,425名の参加者が訪れ、企業展示には44社が出展しました。

会員による研究発表では、口演発表33題、ポスター発表90題と、多くの演題が発表されました。また、特別講演、教育講演、シンポジウム、都民フォーラムなど、多彩なプログラムも行われ、参加者にとって有意義な研鑽の場となりました。

さらに、オンデマンド配信による日本口腔衛生学会と日本歯科保存学会との共同企画も実施され、研究討論会は11月9日(日)にZoomウェビナーにて開催されました。

本大会はハイブリッド形式で実施され、オンデマンド配信は11月25日(火)から12月25日(木)まで行われ、配信期間の参加登録者を含め、最終的に1,602名の参加となりました。詳細については、第20回学術大会ウェブサイト、日本歯科衛生学会公式Xをご覧ください。



第20回学術大会
ウェブサイト



日本歯科衛生学会
公式X

日本歯科衛生学会 第20回学術大会
 歯科医療DXで変わる！歯科衛生士の未来 ― 知る、活用する、つながる ―

都民フォーラム 「自分らしく健康を決める力：ヘルスリテラシーを身につける ―情報の活用をめざして―」について

日本歯科衛生学会 第20回学術大会において、都民フォーラムを開催いたしました。聖路加国際大学大学院看護学研究科

講師にお招きしたのは、ヘルスリテラシーの第一人者としてご活躍の中山和弘先生です。

なか やま かず ひろ 教授
 中山 和弘先生



ヘルスリテラシーとは、“健康や医療に関する正しい情報を入手・理解し、適切に活用する力”のことを指します。

ご講演では、まず、情報を「入手」「理解」「評価」し適切に「意思決定」する4ステップのご説明から始まり、情報を評価するポイントとして【か・ち・も・な・い】という5項目を教えてくださいました。

【か・ち・も・な・い】

か：書いたのは誰か、発信しているのは誰か

ち：違う情報と比べたか

も：元ネタ(根拠)は何か

な：何のための情報か

い：いつの情報か

※覚え方：この5つを確認していない情報は「価値もない」

次に、自分らしく決める方法として【お・ち・た・か】という4つのポイントがあるとのこと。

【お・ち・た・か】

お：オプション(選択肢)→選べる選択肢が全てそろっているか確認する

ち：長所→各選択肢の長所を知る

た：短所→各選択肢の短所を知る

か：価値観→各選択肢の長所と短所を比較して、自分にとって何が重要かはっきりさせる

※覚え方：「胸(または腹・臍)におちたか」

いい意味でも、あらゆる情報を手軽に入手できる今、情報に溺れることなく正しい情報を得なければなりません。しかし、「正しい情報の見極め方」を知らなければ、進む方向を見誤ってしまいます。中山先生のお話では、自分の健康を守るためにヘルスリテラシーを高めることが大事であり、情報の取捨選択に気をつけながら自分で意思決定していく方法を知ることができました。

(公益社団法人東京都歯科衛生士会 会長 藤山 美里)



日本歯科衛生士会における国際交流

1

国際歯科衛生士連盟(IFDH)との関わりとIFDHの活動

日本歯科衛生士会が海外の歯科衛生士事情の調査を本格的に始めたのは、創立20年を迎えて会の活動や組織が活性化し、歯科衛生士の将来像を検討し始めたことが契機でした。海外の歯科衛生士はどのような立場で業務を行い、どのような方向を目指しているのかを把握するために、1971年にアメリカ歯科衛生士会へ視察に訪れたことが記録されています。この視察をきっかけに、1973年にオランダ・アムステルダムで開催された第4回歯科衛生国際シンポジウム(International Symposium on Dental Hygiene: ISDH)から、当会は正式に国際的な活動に参加するようになりました。さらに、1975年の第5回ISDHは日本が主催国となり、「世界のそれぞれの国における歯科衛生士が果たしている役割と将来の発展的展開について」をメインテーマとして開催しました。

ISDHに関連した議論は、従来歯科衛生国際連絡委員会で行われていましたが、本委員会よりもより広い目的を持つ国際組織の必要性が繰り返し検討され、1986年ノルウェーのオスロで開催された第10回ISDHにおいて、国際歯科衛生士連盟(International Federation of Dental Hygienists: IFDH、当時はIDHF)が設立されました。その後1995年には、日本が2回目の主催国として第13回ISDHを東京で開催し、メインテーマ「歯の健康地球サイズ」のもと、23か国から1,160人の参加を受け入れました。

現在のIFDHは、世界の歯科衛生専門職を代表して支援・推進する中心的組織であることが定義され、設立から約40年を経て、現在では33か国 80,000人以上の歯科衛生士を代表する力強い団体へと成長しています。活動は多岐にわたり、歯科衛生教育カリキュラムや倫理綱領の策定、世界保健機関(WHO)・国際歯科連盟(FDI)・国際歯科学研究学会(IADR)との関係構築、ISDHの開催、国際歯科衛生誌(International Journal of Dental Hygiene: IJDH)の発刊、各種助成金や世界歯科衛生士賞に代表される受賞の設立などが挙げられます。このように、加盟国の増加と活動活発化に伴い審議事項が増えたことから、IFDHは加盟国代表者会議としてHouse of Delegates Meeting(HoD会議)を組織し、2001年以降、対面またはオンラインで継続的に開催しています(写真1)。



写真1: HoD会議の様子(2019年、オーストラリア・ブリスベン)

2

歯科衛生国際シンポジウム(ISDH)

上記のとおり、歯科衛生国際シンポジウム(ISDH)の開催歴はIFDH設立よりも古く、第1回ISDHは1970年にイタリア・ローマで開催されました。当初はIFDHが存在しなかったため、アメリカ歯科衛生士会が中心となって企画・運営していました。ISDHは近年、2年に1回の頻度で開催されています(写真2)。最近では、2024年に韓国・ソウルで開催され、さらに2026年にはイタリア・ミラノにて開催される予定です(2026年7月9～11日)。



写真2: ISDHオープニングセレモニー(ISDH2016、スイス・バーゼル)

ISDHは、歯科衛生に関する専門的・個人的知識を共有し、国際的な交流を深める貴重な機会です。参加者は、人間的・文化的に豊かな体験を通じて、健康やケアに関する概念をより広い視点から捉えることができます。日本からの参加者や発表者も年々増加しており、国内外のネットワーク形成の場として重要性が高まっています。自身の研究や活動をISDHで発表することは、世界に向けて成果を発信できるだけでなく、海外からの

反応や意見を直接得られる貴重な経験となります。また、英語でのプレゼンテーション能力やディスカッション能力の向上にもつながり、大変有意義な機会といえます。今後、より多くの日本からの参加者が国際舞台へ飛躍することを期待しています(写真3・4)。



写真3: 講演の様子 (ISDH2024, 韓国・ソウル,
演者: 藤原奈津美, 座長: 宮澤絢子)

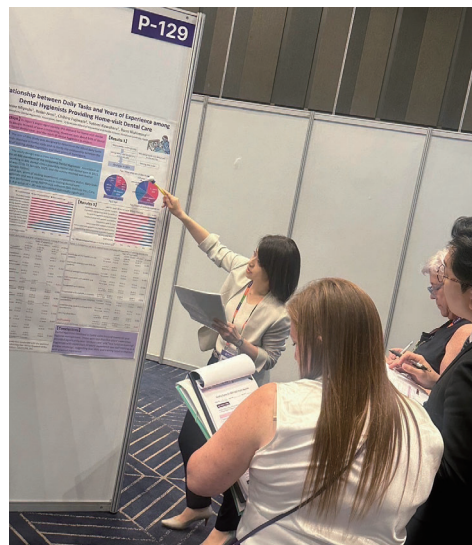


写真4: ポスター発表の様子 (ISDH2024, 韓国・ソウル,
三好早苗さん)

3

国際協力委員会～日本歯科衛生士会とIFDHの架け橋～

日本歯科衛生士会の国際交流に関する事項は、国際協力委員会が主に担っています(写真5)。本委員会は、臨床、健康増進・啓発事業、教育など多様な分野のメンバーが、それぞれの海外経験やネットワークを活かして活動しています。

委員会では、会員の皆様がIFDHとつながり、世界の最新動向に触れられる機会を設けています。IFDH加盟国の状況、ISDHやIJDHなどに関する情報を、歯科衛生だより会報や本会ウェブサイト、公式Instagramで随時情報を共有しています。

また、日本歯科衛生学会学術大会や本会の取り組みは、IFDHのeNewsを通じて世界に紹介しています。IFDHウェブサイトは90か国語以上に対応し、他国の歯科衛生士会の取り組みや最新の情報に触れられます。

日本歯科衛生士会
ウェブサイト



日本歯科衛生士会
公式Instagram



2024年に韓国・ソウルで開催された約30年ぶりのアジアでのISDHは、大韓歯科衛生士協会との交流を深める契機となりました。今後はアジアのみならず、世界各国の歯科衛生士との連携を強め、口腔保健の発展に貢献することが期待されます。



写真5: 国際協力委員会メンバー(日本歯科衛生学会第20回学術大会, 東京)
(後列左より)藤原奈津美委員長・担当理事, 茨木浩子委員
(前列左より)竹之内茜委員, 宮澤絢子副委員長, 松田悠平委員,
河野章江副会長

国際的な交流や情報共有は、広い視点を持って患者や地域の健康支援に寄与することにつながることを期待されます。国際協力委員会は、世界の歯科衛生専門職と学び合い、専門性を高めながら、その成果を地域や世界へ還元できるよう、今後も国際交流を推進してまいります。

【参考文献】

1. 「歯科衛生士のあゆみ」編纂委員会。
歯科衛生士のあゆみ-日本歯科衛生士会60年史-。
公益社団法人 日本歯科衛生士会, 2012年。
2. International Federation of Dental Hygienists (IFDH)
ウェブサイト. <https://ifdh.org/>



IFDHウェブサイト

(公益社団法人日本歯科衛生士会 国際協力委員会
藤原奈津美・宮澤絢子)

全国各地から 岩手県歯科衛生士会

IWATE

令和5年度「地域歯科衛生活動」事業報告
～子どもの食べる力を育む口腔機能向上普及啓発事業について～

平成27年に日本歯科医学会重点研究委員会が実施した「子どもの食の問題に関する調査¹⁾」によれば、子どもの食事に関して心配事があると回答した保護者は53.8%に達し、半数以上が何らかの悩みを抱えていることが明らかになりました。この結果は、子どもの「食べる力」に対する不安が社会的に広く存在していることを示唆しています。

こうした背景を踏まえ、本事業では小児期の「食べる機能」に着目し、保護者や教育・保育関係者が口腔機能の課題に早期に気づき、適切な支援につなげられる体制づくりを目指しました。令和5年度は、日本歯科衛生士会「地域歯科衛生活動」事業助成の2年目として前年度の課題を分析・改善し、より個別性に配慮した事業を展開しました。

事業の目的

子育て支援における食育では、「食べる機能」への理解が不可欠です。保護者や教育・保育関係者が、子どもの口腔機能の弱さに早期に気づき、適切な支援につなげられることを本事業の目的としています。

実施内容

1) 検討委員会の設置

事業の方向性と具体的な展開方法を検討するため、以下の構成で委員会を設置しました。

①メンバー構成

歯科医師1名、言語聴覚士1名、歯科衛生士4名(計6名)

②検討内容

第1回：保育園での「お口あそび」を取り入れた歯科保健指導案の検討

第2回：指導案の最終確認および全体打合せ

第3回：食に関する心配事を抱える園児への対応方法の検討

2) 「お口あそび^{※1}」を取り入れた歯科保健指導の実施

県内4か所の保育園にて、幼児128名・保育士16名を対象に「お口あそび」を取り入れた歯科保健指導を実施しました。

※1：遊びをととして口腔機能の発達を促す取り組み



お口あそび・吹きこま

①実施施設

花巻市：若葉保育園
大船渡市：綾里こども園

盛岡市：ぎんがの里保育園
盛岡市：いちご保育園

②内容

子どもの口腔機能を観察し、遊びを通じて発達を促す「お口あそび」を実施しました。今年度は新たな試みとして、1つの園にて「キシリトール咀嚼チェックガム^{※2}」と「咀嚼チェックアプリ」を活用し、咀嚼力の評価を行いました。判定結果に課題が見られた園児については協力歯科医に報告し、診査を経て歯科衛生士が継続的に関わりました。5か月後の再評



キシリトール咀嚼チェックガムの説明



キシリトール咀嚼チェックガム

価では、咀嚼チェックガムの色に改善が確認されました。

また、事前に各施設の保育担当者へ「食の心配ごとアンケート」を実施し、課題を抱える園児への対応について委員会で協議しました。指導当日には保育担当者へ助言を行い、現場での支援につなげました。

※2：よく噛むことで徐々に赤色に変化するため、色の変化を利用して咀嚼能力を確認するためのガム



園児が噛んだ実際の咀嚼チェックガムの様子

天然歯本来の歯面を
ノンフッ素歯面クリーニング

□ホワイトニング前のクリーニングに
□補綴物装着前の清掃に
□矯正用のブラケット装着前に

アドネスト[®]ファイン
歯面研磨材(仕上げ研磨)
ノンフッ素
ピーチフレーバー

アドネスト[®]コース
歯面研磨材(粗研磨)
ノンフッ素
ライチフレーバー

各種歯面処置前のクリーニングにご使用いただくことにより、天然歯本来の歯面を提供し、処置の効果を最大限発揮しうる環境を整えるプロケア用のペーストです。

アドネスト ファイン
■仕上げ研磨材(一般的名称:歯面研磨材)
■一般医療機器 医療機器届出番号 13B1X00154000022

アドネスト コース
■粗研磨材(一般的名称:歯面研磨材)
■一般医療機器 医療機器届出番号 13B1X00154000023

製造販売業者
ネオ製薬工業株式会社
〒150-0012 東京都渋谷区広尾3丁目1番3号
Tel. 03-3400-3768(代) Fax. 03-3499-0613
お問い合わせ ☎ 0120-07-3768

※ご使用の際には取扱説明書をよく読んでください。 ACAF2503

3) 子どもの口腔機能情報の普及啓発活動

保護者や一般の方々への啓発を目的に、オンデマンド配信による講演を実施しました。

① 講師

一般社団法人アクティビティいわて
言語聴覚士 松田 輝美氏

② 演題

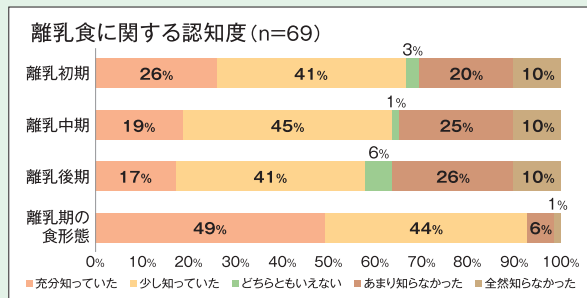
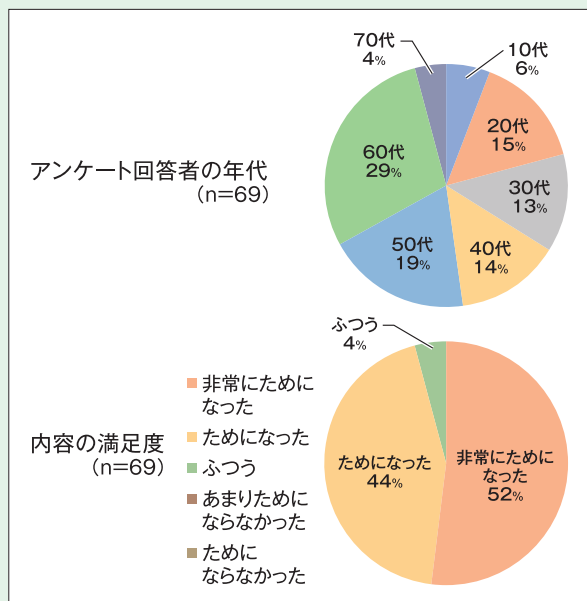
「お口とからだと離乳食
～赤ちゃんが決めるはじめてのひとくち～」

③ 配信期間

令和6年1月4日～1月31日

再生回数：745回

アンケート回収数：69名



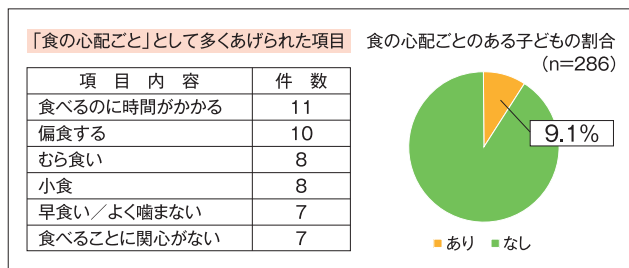
得られた成果

令和5年度は、前年度の反省を踏まえて改良を加え、「お口あそび」を中心とした歯科保健指導を展開しました。これにより、教育・保育関係者が口腔機能に関心を持つきっかけとなり、特に「キシリトール咀嚼チェックガム」は視覚的なインパクトが強く、子ども一人ひとりの咀嚼機能の状態が可視化されるため、理解促進に効果的でより具体的な支援につなげることもできました。

また、事前アンケートにより課題を抱える園児を把握し、個別に支援の提案を行うことができました。保育関係者が

園児の口腔機能の弱さに気づき、食べる力の課題解決に向けた動機づけにつながったと考えられます(表1)。

表1 食の心配ごととアンケート



さらに、オンデマンド講演では離乳期の摂食機能と口腔機能に関する情報を広く発信でき、多くの方々に理解を深めていただく機会となりました。

今後の課題と展望

本事業で得られた知見や手法を、歯科衛生士だけでなく子どもの健康教育に関わるすべての関係者が活用できるよう、均てん化の方法を検討する必要があります。

また、口腔機能に着目した歯科保健指導の重要性を広く認識してもらうためには、継続的な情報発信と啓発活動が不可欠です。小児の口腔機能に関する認知度は依然として高いとはいえず、今後も地域に根ざした取り組みを通じて、保護者や関係者の理解を促進し、子どもの「食べる力」を支える環境づくりを進めていきたいと考えています。

【参考】

1) 日本歯科医学会重点研究委員会. 子どもの食の問題に関する調査報告書 (2015年1月). <https://www.jads.jp> (2025.10.25アクセス)

(一般社団法人岩手県歯科衛生士会 検討委員 富手 由歌里)

すこやかな毎日、
ゆたかな人生

Glico

MORITA

ガムトレーニングにも！

ボスカ・エフ

POs-Ca F

水溶性カルシウム(POs-Ca) + 緑茶エキス 配合ガム

子ども大人も
ボスカ・エフで
お口すこやか！

無料WEBセミナー
受付中！

かむたびに、カルシウムイオンと
フッ化物イオンがお口に広がる！

【種類】 ペパーミント / マスカット / ストロベリー
【包装】 パウチタイプ100g
【標準価格】 各800円(税別) 【患者参考価格】 各940円(税別)

●贈答商品の標準価格 患者参考価格は、2025年4月21日現在のものです。標準価格 患者参考価格には消費税は含まれておりません。
●仕様および外観は、製品改良のため予告なく変更することがありますので、予めご了承ください。
●ご使用に際しましては、製品説明を必ずお読みください。

製造 江崎グリコ株式会社 大阪市西淀川区歌島4-6-6 〒565-8502 グリコお客様センター T 0120-917 111 (月～金 9:00～17:00)
発売 株式会社 モリタ 大坂本社 大阪府吹田市豊津町3-33-18 〒564-4650 T 06-6380 2525
東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 T 03-3834 6161
お問合せ お客様相談センター <歯科医療従事者様専用> T 0800-222 8020 (フリーコール)
www.dental-plaza.com

日本災害歯科支援チーム「JDAT」をご紹介します

大規模災害が発生すると、被災した都道府県は住民の生命・安全・暮らしを守るために、保健・医療・福祉を総合的に支援・調整する機関(保健医療福祉調整本部)を設置し、さまざまな医療チームや保健福祉チームが多職種連携で支援活動を行います。

歯科関連職種によるJDAT(Japan Dental Alliance Team:日本災害歯科支援チーム)は、災害発生後おおむね72時間以降に被災地に入ります。被災した方々のお話をうかがいながら、「しっかり食べること」に困難を抱える方の問題解決を図り、災害関連死につながる「誤嚥性肺炎」を防ぐ活動を多職種と連携して展開します。



1 被災地で活動するチーム(抜粋)

ディーヒート DHEAT	災害時健康危機管理支援チーム	自治体に勤務する医師・保健師等が被災自治体に赴き、保健所体制の支援やマネジメント業務の補佐を行う。
デーマット DMAT	災害派遣医療チーム	災害急性期に活動できる専門的な訓練を受けた医療チームで、真っ先に被災地に入り医療活動を開始する。
ジェーマット JMAT	日本医師会災害医療チーム	急性期医療を担うDMATから引継ぎ、中長期的に医療活動を行うとともに地域医療の再生を支援する。
ジェイダット JDAT	日本災害歯科支援チーム	応急歯科医療や口腔衛生活動をととして、被災者の健康を守り地域歯科医療の復旧を支援する。
ジェーディーエーダット JDA-DAT	日本栄養士会災害支援チーム	避難生活を食と栄養の面から支える。アレルギーや疾患、口の機能による食事内容・食形態にも対応する。
ディーパット DPAT	災害派遣精神医療チーム	災害ストレスにより拡大する精神保健医療ニーズを把握し、精神科医療の提供と精神保健活動の支援を行う。
ジェイラット JRAT	日本災害リハビリテーション支援協会	理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)他、多職種からなり、生活不活発病や災害関連死予防のためのリハビリ活動を支援する。
ディーワット DWAT	災害派遣福祉チーム	避難所等で災害時要配慮者に対し、健康調査や環境整備、福祉避難所への誘導等の福祉的支援を行う。

SUNSTAR

Brand New on June 21st

BUTLER 

すべてはオーラルケアがつづくために

BUTLERは「プロフェッショナルケア」と「セルフケア」のためのブランドです。適切なオーラルケアが途切れることのない未来を、みなさんと一緒につくっていきます。

詳しくはBUTLER
ブランドページをチェック



製品についてのご質問・ご不明な点は、下記へお問い合わせください。

® 登録商標。BUTLER  は登録商標です。

サンスター株式会社 〒569-1195 大阪府高槻市朝日町3番1号 TEL:072-682-4733(受付時間:平日9:00~17:00) FAX:072-684-5669 2407HR作成

2 災害時にどうして歯科? どうして連携?



使い慣れた歯みがきグッズがない、断水や水場が遠い・寒いことで普段どおりの歯みがきができない
→**歯肉が腫れる、痛む**



食事は、お弁当や菓子パン類に偏り栄養バランスが乱れる
→**口内炎がでやすく治りにくい**



なるべくトイレに行かなくていいように水分摂取を控える
→**脱水症や免疫力の低下 乾燥による口内細菌増加**



入れ歯がない、壊れた等により、しっかりよく噛んで食べられない、気力が失せた
→**低栄養・体力低下**

避難生活においてこのような状態が続くと、心疾患や肺炎、エコノミークラス症候群、持病の悪化につながることがあります。JDATは多職種と連携し、被災された方の口腔を含む健康管理に努めます。

例) DWATと連携

→歯みがきグッズ提供・使い方のレクチャー、避難所環境の改善、居室場所についての配慮

例) JDA-DATと連携

→栄養に配慮し口の機能に応じた食べやすい食事の提供、口内炎への対処

例) JMATと連携

→水分補給と服薬の相談、持病の管理・健康維持とお口の衛生管理

例) JRATと連携

→入れ歯補修、および活力回復のためのリハビリ・運動支援

3 まわりの人の「ささいな変化」に気づいて つないで

被災地にはさまざまなチームが支援に入りますが、支援が必要な方すべてにアプローチできないこともあります。特にご高齢の方は「困っています」と声を上げることを遠慮される方もおられます。

「お隣のおばあさん、いつもお弁当をたくさん残しているみたい」「歯みがきできているのかな?」「よくむせてる」などのちょっとした「気になること」から、支援につながることがあります。まわりの人の食・口腔に関する「ささいな変化」に気づいたら、ぜひJDATにお知らせください。

参考文献: 太田秀人, 中久木康一, JDATの成り立ちと現状、そして今後の期待, 月刊地域医学, 2025;39(4).

公益社団法人地域医療振興協会

(公益社団法人日本歯科衛生士会 災害歯科保健委員会)

月刊 デンタルハイジーン 別冊

歯科衛生士だからできる! 中年期・プレ高齢期の 患者さんへの気づきと対応

口腔衛生指導から食事指導まで

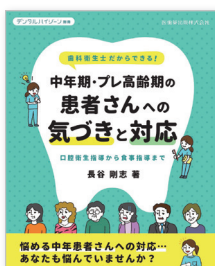
長谷剛志 著

**悩み多き中年期・プレ高齢期の患者さんを、
健康な口腔・生活に導くのは歯科衛生士です!**

中年期・プレ高齢期は、心の不安定や身体の不調といった「ミッドライフ・クライシス」に襲われる時期です。歯科は、そうしたミッドライフ・クライシスを抱えた患者さんの口腔の問題を解決し、その「しんどさ」によりそうことができるのです。

■ AB判 / 104頁 / カラー

■ 定価 3,960円(本体 3,600円+税10%) ■ 注文コード 390760



Dr.Hiroの ペリオの愛し方

山本浩正 著

ペリオを通して

患者さん、そして歯科衛生士としての自分を“もっと好きになる”ための知識とヒントがいっぱいです!



歯周組織を愛し、歯周病菌を愛し、歯周病の検査や治療、そしてメインテナンスを愛する、生粋の「ペリオラバー」の歯科衛生士に贈る愛の指南書です。歯周病への理解が深まり、歯周治療が上達し、そして歯科衛生士としての自分をもっと好きになるための一冊。

■ AB判 / 144頁 / カラー

■ 定価 5,940円(本体 5,400円+税10%) ■ ISBN978-4-263-46335-2



医歯薬出版株式会社

〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10
TEL03-5395-7630 FAX03-5395-7633

<https://www.ishiyaku.co.jp/>

LION

歯科用

独自成分^{*1}配合で、
フッ素滞留性が

約3倍!^{*2}

2024年
10月21日
改良新発売

根面のリスクをトータルでケアする う蝕予防ハミガキ

根面露出

イメージ図

薬用成分
フッ化ナトリウム
1450ppmF配合
う蝕を予防

薬用成分
硝酸カルcium
歯髄神経の興奮を鎮め、
知覚過敏症状の痛みの
伝達を抑制

根面のトータルケア

NaF

KNO₃

PCA

CPC

コーティング剤

ピロリドンカルボン酸
露出した象牙質表面の
コラーゲンをコーティング、
さらに、フッ素を長く留める

薬用成分

塩化セチルピリジニウム
口腔内の浮遊菌を殺菌し、
歯肉炎・口臭を予防

DENT.
Check-Up
rootcare α

露出した根直などをケア



コーティング成分PCA
(ピロリドンカルボン酸)
知覚過敏抑制成分硝酸カルcium配合

フッ素高滞留処方

薬用成分
NaF 1450ppmF

ジェル状ハミガキ

低発泡・低香味・研磨剤無配合

LION

Check-Up rootcare α

【医薬部外品】 チェックアップ ルートケア アルファ

販売名:チェック・アップRBA 内容量:90g メーカー希望患者様向け価格/個:950円(税抜) *1 塩化カルシウム(安定剤)・無水ピロリドンカルボン酸(清掃助剤) *2 旧製品比較 データ:ライオン(株)研究所による牛歯根象牙質切片を用いたフッ素滞留量の定量実験 N=4 ●フッ化物高濃度配合品(1450ppmF)の6才未満への使用は控え、子供の手の届かない場所に保管してください。

ライオン歯科材株式会社
〒111-8644 東京都台東区蔵前 1-3-28 TEL.03(6739)9012

ライオン歯科材

<https://www.lion-dent.co.jp/>

詳細情報は
こちら ➡



株式会社モリタ